



ふれあいの丘天文館だより



★今月の天文情報★

●木星が見ごろです。

夜8時ごろ、東の空にひときわ明るく輝いている星があります。太陽系最大の惑星、木星です。今年は、誕生日の星座の「おうし座」あたりにあります。

木星は、主にガスでできているガス惑星(地球は岩石惑星)で、地球の約11倍の大きさ、およそ10時間で自転しています。地球から約6億3千万kmかなたの宇宙にあり、望遠鏡があれば表面にあるしま模様や、大赤斑(だいせきはん)という巨大な渦巻きを観察できます。また、木星のまわりには60個を超える衛星(地球でいう月)があり、このうち4個は、今から約400年前に、望遠鏡を空に向けた天文学者ガリレオ・ガリレイが発見したことから「ガリレオ衛星」と呼ばれています。木星に近い順にイオ、エウロパ、ガニメデ、カリストといい、ギリシャ神話などから名前がとられています。双眼鏡でも衛星が毎日その位置を変えていく様子を見ることができ、見どころの尽きない惑星です。

●秋に見られる代表的な銀河

「アンドロメダ座大銀河(M31)」を紹介します。

「アンドロメダ座大銀河」は、アンドロメダ姫のちょうど腰のあたりにあります。この銀河は、私たちの天の川銀河の隣にあり、直径はおおよそ20万光年、地球からの距離は、230万光年で、数千億個の星の集まりです。(1光年：光が1年間で進む距離)



明るさは約4.4等級。空気の澄んだ月明かりのない夜には、肉眼でもかすかに楕円形(米粒のような形)に広がる淡い光の光芒として見る

ことができます。低倍率の望遠鏡では、写真のような姿をはっきりととらえることができます。

天文館では、「木星」並びに「アンドロメダ座大銀河」を観望していただけますので、ぜひお出かけください。

●12月14日(金)、「ふたご座流星群」が極大日(ピーク)

「ふたご座流星群」は、1月の「しぶんぎ座流星群」、8月の「ペルセウス座流星群」と並んで「三大流星群」と称され、12月14日に流れ星の数がピークになると予想されています。流星が飛び出してくるように見える中心点(放射点)が、ふたご座にあることから「ふたご座流星群」と呼ばれています。

今年は月明かりもなく最良の条件です。まわりに明るい照明などがなく、空が広く見渡せる場所で、空の広い範囲に注意を向け観察するとよいでしょう。

なお、天文館では、「ふたご座流星群」の観望会を予定しています。詳しくは、次号でお知らせします。

■問い合わせ

ふれあいの丘天文館 ☎(28)3254

🌐 <http://www.fureai-tenmonkan.jp/>

ふれあいの丘自然観察館だより

当館では、企画展「化石」～化石に学ぼう～を開催しています。

「化石」は現代の私たちに多くのことを語りかけています。その声を聞いてみませんか。

今回も展示されている化石を一部紹介します。



●栃木県で、ただ一つ発見された「三葉虫」

古生代の代表的な化石で1万数千種が知られていますが、日本では比較的珍しい化石で、栃木県では葛生産の1個しか見つかっていません。

三葉虫は、体が縦に2本の溝によって、3つの部分に分かれていることから、このような名前と呼ばれています。でも、形や大きさはさまざまで、発達した複眼をもつ最古の動物です。



大きな三葉虫の化石

体は、頭部、胸部、尾部からなり、丈夫な殻(外

骨格)に覆われ、他の節足動物と同じように、脱皮を繰り返し成長しました。脱皮後の抜け殻の化石も多く発見されています。海底を歩きながら、泥を舞い上げ、その中にあるエサを食べていたようです。

☆カブト・クワガタ検定に挑戦!

昨年からスタートした「カブト・クワガタ検定」は、カブトやクワガタの生態・分類・飼育法などに関する幅広い問題のため難しいのですが、これまで48人の人が受験し、そのうち12人の皆さんが見事合格しました。合格率は25%です。

合格者第1号は、那須烏山市の小学4年生でした。参考までに、最年少は茨城県の小学3年生(8歳)、最年長は39歳の女性(野木町)の方で、大田原市内の合格者は3名でした。

皆さんの挑戦を待っています。合格バッチも待っています!(ただし、一度合格された方は受験できません。)



特製合格バッチ

■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 ☎(28)3131

🌐 <http://www.fureaino-oka.com/shizen/>